

経営比較分析表（平成30年度決算）

神奈川県 平塚市

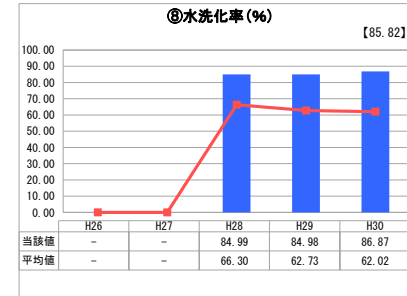
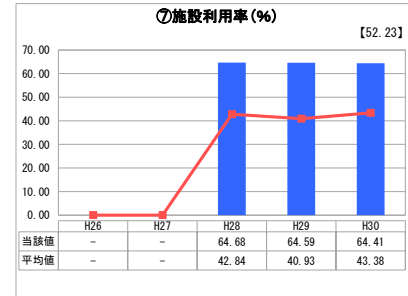
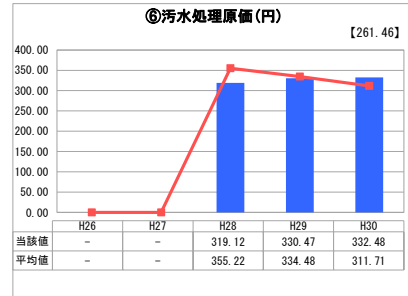
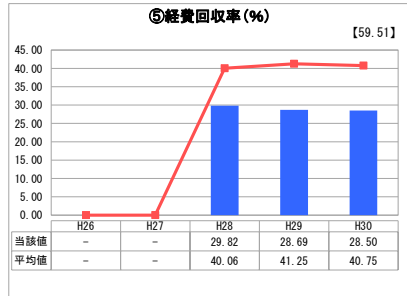
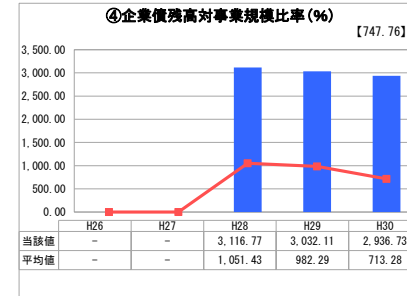
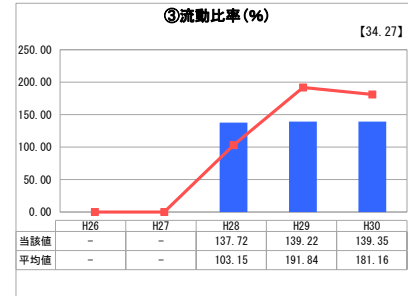
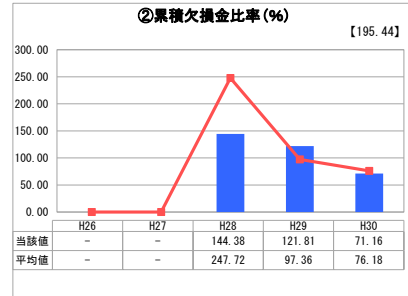
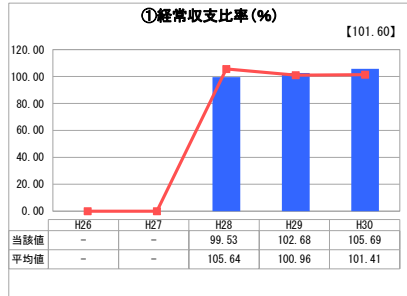
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	52.15	1.16	96.68	1,998

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
257,113	67.82	3,791.11
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,978	1.24	2,401.61

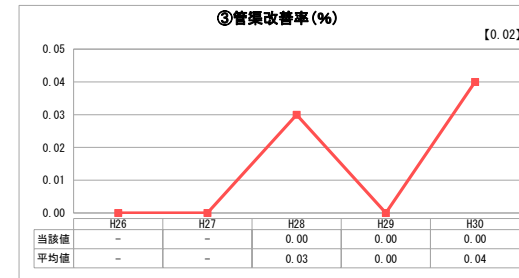
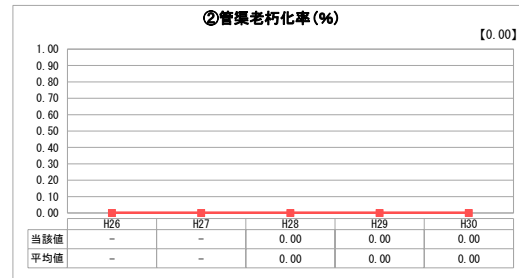
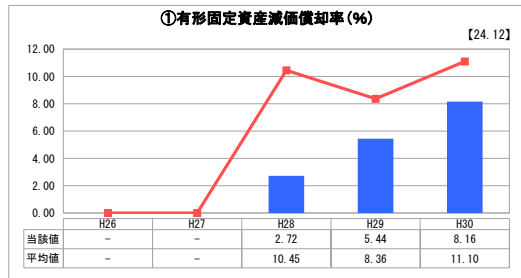
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [] 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は100%を維持し、②累積欠損金比率は累積欠損金が減少し改善の方向に向かっています。
 ⑦施設利用率及び⑧水洗化率は全国平均及び類似団体平均を上回っていますが、⑤経費回収率は全国平均及び類似団体平均を下回っているため、課題であると捉えています。
 ④企業債残高対事業規模比率は全国及び類似団体平均を大きく超えています。事業の構成により企業債の新規借入れがないこと、また、現状では使用料収益の大幅な増加が見込めないことから、低減傾向が続く見込みです。
 ⑥汚水処理原価は全国及び類似団体平均を超えていることから、引き続き、未接続世帯に対する接続促進に取り組み、有収水量の増加に努めてまいります。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率及び②管渠老朽化率については、事業の構成により新たな固定資産の取得がなく、また、事業供用開始からの経過年数が短いことから、③管渠改善率とともに、現状では老朽化に関する喫緊の課題はないため、当面は施設の管理を適切に行っていくことが重要であると考えます。

全体総括

平均を上回る指標もありますが、一般会計からの繰入に依存せざるを得ない状況と高い汚水処理原価などから、経営環境は非常に厳しいものと考えます。
 接続率向上、累積欠損金の解消や経費回収率の改善等の課題に取り組み、経営の効率化を図りながら、広域化・共同化や適正な料金水準等あらゆる面での抜本的な検討を通じた中長期的な視点での経営に取り組みます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。